

## 島原南部とその向こうにひろがる景色

この展望台は島原半島南部に面していますが、晴れた日には遥か遠く東に阿蘇山や熊本市街地などのランドマークを望むことができます。また、これらの山を囲む平原地帯は肥沃な土壌を有し、長崎県内最大の農業地域となっています。そして、その向こうに位置する有明海は海流が早く魚に恵まれ、イルカたちにとってお気に入りの遊び場でもあります。遠くには、雲仙天草国立公園の一部である天草諸島が見えます。

1637年、重い年貢・キリシタン迫害に不満を募らせた者たちが一体となって起こした島原の乱は、この半島から始まりました。1638年4月15日、120,000人以上の幕府討伐軍が長期の包囲攻撃を仕掛けると一揆軍は制圧され、16歳の少年が先導した島原の乱は半島の南沿岸部にあった原城で終わりを遂げます。その後、一揆軍とその支持者20,000人が斬首されました。島原の乱の後、幕府は国外との交流をほぼすべて絶ち、キリシタンに対する禁教策をさらに強化したことでキリスト教は闇に葬られました。現在残っているのは、原城の史跡のみとなっています。

背後左側をみると、この連山に新しく仲間入りした、不毛の地表が目印の平成新山が見えます。平成新山は1990年11月に始まった近年の噴火により形成された溶岩ドームで、この噴火による火砕流は海にまで到達しました。ここは、その跡を眺めるのに絶好のスポットとなっています。目を凝らすと、植物や木々が根を張り始めた箇所が緑に染まっているのが見えます。これは山腹における森林再生の兆しです。